

## 第1部

### 証言

#### 「記憶の底の満州」

近藤 瑩

戦争が終わり成人してからも後ろに男性が立たれると何故か怖い、それは自分でも気付かなかった記憶の底に残る幼い時の経験が原因でした・・・

### 朗読

#### 「杉原千畝」生命をみつめるより

早乙女勝元 作

京急百貨店カルチャーCOTONOWA 朗読教室 在籍

江木万喜枝

近藤瑩

早乙女氏が鎌倉にある故 杉原千畝宅を訪ね、幸子夫人から、多くのユダヤ人の命を救った当時のお話を伺いました。その時のお話を朗読でお伝えします。

### 朗読劇

#### 「死んでもブレストを」

早乙女勝元 作

藤堂叶倫 脚本

藤堂叶倫朗読教室 / 恵比寿朗読サロン 在籍

木村千代

小林己恵子

常住友貴子

池田雅子

1945年3月東京大空襲の日に、隅田電話局の若き女性通信戦士たちが、ブレストを守り亡くなっていったお話を朗読劇にてお届けします。

※本朗読劇は、早乙女勝元作「死んでもブレストを」を基にしておりますので多くの事実が含まれておりますが、戦争当時の様々な思いを反映させたフィクションを加え脚本化させて頂きました。

朗読指導・演出・企画・構成

藤堂叶倫

映像制作

語りと音楽「リリアン」

## 第2部

### 講演

#### 「平和を想う」

作家

早乙女勝元

東京大空襲・戦災資料センターを設立するなど平和教育の第一人者として、また「猫は生きている」など多くの作品を生み出した鋭い作家としての目線からご講演頂きます。

早乙女 勝元 プロフィール

東京都出身。1932年生まれ。12歳で東京大空襲を経験。働きながら文学を志し、18歳の自分史『下町の故郷』が直木賞候補になる。また『ハモニカ工場』『美しい橋』『秘密』などが続々と映画化される。1970年、「東京大空襲・戦災誌」で菊池寛賞を受賞。1971年ルポルタージュ『東京大空襲』がベストセラーになり、日本ジャーナリスト会議奨励賞を受賞。1992年、「戦争と青春」(今井正監督、工藤夕貴主演)の原作・脚本で、日本アカデミー賞特別賞を受賞。1994年に、映画「ベトナムのダーちゃん」(後藤俊夫監督、古谷一行主演)を、2002年にドキュメンタリー映画「軍隊をすてた国」(山本洋子監督)を完成、ビデオになる。同年、江東区北砂に民立民営の「東京大空襲・戦災資料センター」をオープン、館長に就任。2019年6月後進に託し館長を退任。同館名誉館長となる。

### 父から聞いた僅かな事と軍隊手帳

#### 「父の戦争」

朗読家 / 朗読講師

藤堂叶倫

父の軍隊手帳をゆっくりみれば、もっと話を聞いてあげればよかった、もっとやさしく大切にしていればよかったと後悔ばかりが残ります・・・

### 終わりに

入場者数を発表後、お客様全員の総意としてお客様代表より入場料金が早乙女勝元氏に平和活動費として贈られます。早乙女氏から最後にお言葉を頂戴致します。

### ご挨拶

この会は、2000年に発足させて頂き、2005年からは「今、伝えたいこと」というテーマで、私共が選んだ“伝えるべき事実”を“朗読”をはじめ“講演”“証言”などでお届けする公演を行っております。第1回より「広島原爆」「長崎原爆」「沖縄戦」「東京大空襲」「世界の地雷」「ボラティア活動について」「東日本大震災」「障害を持つ方との共生」などに焦点をあててまいりました。

皆様の応援によりお陰様で今回で11回目を迎えることができます。今回は、朗読の中にも、講演、証言の中にも平和を切に願う人達の想いが溢れます。悲惨な過去を経験された方々が、死の寸前まで願った平和への想いを少しでも繋いで行くことが出来れば幸いです。ボランティアの小さな会ではございますが、一人でも多くの方が他の人に心を寄せることが出来れば、悲しみを持つ人は確実に減ると信じて公演を行っております。どうか皆様のお力添えをお願い申し上げます。

目黒区芸術文化活動団体 語りと音楽「リリアン」